学校番号	１００７

令和３年度　公民科

教科	公民	科目	政治経済	単位数	２単位	年次	３年次
講座名	政治経済						
使用教科書	「最新　政治経済　新訂版」　（実教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・過去から現在に及ぶさまざまな社会問題を理解し、現在の日本のあり方を考えさせる。また、種々の社会問題に対し、自ら解決策を考え、意見を出し合い、集団での合意形成を行う力を養わせる。
・新聞記事などの最新ニュースを扱い、現代社会について理解を深める。

2　学習の到達目標

・政治や経済の基本的な学習を通じて、社会の一員となる姿勢を涵養するとともに、自らの社会生活に学んだことを活かそうとする態度を育てる。
・広い視野に立って、現代の政治・経済・国際問題に関する諸課題に対する多様な見方・考え方を学び、その解決に向けて主体的に考える態度を養わせる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力理解する態度を身に付け、人間としてのさまざまな在り方生き方についての自覚を深めようとする。	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見いだし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的･多角的に考察し、社会の変化やさまざまな考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	現代の社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付ける。	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄や学び方を理解し、その知識を身に付ける。
評価方法	・発問評価 ・グループワーク ・ノート提出 ・授業態度 ・定期考査	・発問評価 ・ノート提出 ・授業態度 ・定期考査	・発問評価 ・ノート提出 ・小テスト ・授業態度 ・定期考査	・発問評価 ・ノート提出 ・小テスト ・授業態度 ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	現代の日本経済と福祉の向上	・戦後復興から高度経済成長へ ・安定成長からバブル経済へ ・転機にたつ日本経済 (具体的な学習内容) ・バブルとその崩壊後の不況、という現状に至る日本経済の流れを追い、経済成長や景気変動、金融・財政政策という理論的既習事項を現実の歴史の中で具体的に把握させる。 ・公害や労働関係、社会保障といった日本経済が直面する課題について理解し、今後の展望について考察させる。	○ ○ ○	○ ○	○	○ ○ ○	a: 高度成長から安定成長、バブル経済からバブル後の不況といった戦後日本経済が歩んだ流れを追究しようとする意欲的な態度が見られる。また現代の日本経済の課題について考える態度を身につけている。 b: 戦後日本経済史との関連の中で、労働問題など日本経済の課題を考察している。また、現代の日本経済についてさまざまな情報手段を活用して情報を収集し、内容をまとめてレポートを作成したりするなど、適切に表現する方法が身についている。 c: 戦後日本経済史に関する史料を、様々な文献から幅広く収集し、公害や労働問題、社会保障といった様々な課題に関するデータを白書類から収集し、課題解決の手段として活用している。 d: 公害、労働問題や社会保障といった日本経済の現状と課題に関して十分な知識を有するとともに、課題を解決する様々な方法に対して理解を示している。	・発問評価 ・グループワーク ・ノート提出 ・小テスト ・授業態度 ・定期考査

	現代の国際経済	・貿易と国際収支 ・外国為替市場のしくみ ・第二次世界大戦後の国際経済 ・発展途上国の諸問題 （具体的な学習内容） ・貿易の意義や国際収支、為替相場の仕組みといった国際経済の基本的な事項を理解させる。 ・戦後の国際経済の流れを踏まえ、地域統合や経済摩擦、南北問題など国際経済を取り巻く課題を理解させる。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	 ○	○ ○ ○ ○	a：現代の国際経済の動向に対する関心が高まっている。また、商品、労働力、資本、情報がボーダレスで移動するなど、国際的な相互依存関係が深化する国際経済の特質を意欲的に追究している。 b：現代の国際経済の動向から、課題を見いだしている。また経済のグローバル化の動きに対して、商品や労働力、資金の移動などから多面的・多角的に考察するとともに、競争原理を前提としたグローバル化の弊害についても的確な判断を示している。 c：現代の国際経済の動向に関する諸資料を、様々なメディアを通して収集している。また、収集した資料から、グローバル化の進展など国際経済の特質、国際経済の安定と成長のために果たすべき日本の役割などについての情報を主体的に選択して活用している。 d：自由貿易と保護貿易の考え方、国際収支表の見方や為替レートの仕組みなど、国際経済に関する基本的な知識を習得している。また、グローバル化が進む国際経済の動向の中で、地域的経済統合や南北問題の新たな局面を理解している。	・発問評価 ・グループワーク ・ノート提出 ・小テスト ・授業態度 ・定期考査

後期	日本国憲法と基本的人権	・日本国憲法の成立 ・日本国憲法の基本原理 ・自由に生きる権利 ・平等に生きる権利 （具体的な学習内容） ・日本国憲法の成立過程をふまえ、憲法の三大原理を把握させる。 ・日本国憲法における基本的人権の保障の内容を学習し、今日における日本国憲法の意義を理解する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ 	○ ○ ○ ○	a: 日本国憲法の成立過程や国民主権、基本的人権の尊重、平和主義といった基本原則に対して興味・関心を抱いている。また、現実の人権問題に対して関心を示し、日本が抱える課題に対して追究する態度を示している。 b: 大日本帝国憲法と日本国憲法を比較しながら、民主主義の実現を目指す憲法の必要性について考察を加えている。また、人権保障の憲法の条規と、現実の社会における課題との関連を考察し、社会の望ましい在り方を判断している。 c: 日本国憲法の成立や人権保障に関する情報を、さまざまな手段を使い収集している。また、人権問題に関して収集した資料を、自ら設定した課題解決のために主体的に選択し、活用している。 d: 日本国憲法の成立過程について、史実と関連させて適切に理解している。また、人権保障に関連する日本国憲法の基本的条規について、正しい理解を示している。	・発問評価 ・グループワーク ・ノート提出 ・小テスト ・授業態度 ・定期考査
	日本の平和と国際平和	・平和主義と自衛隊 ・日米安全保障体制の変化 ・21 世紀の平和主義 （具体的な学習内容） ・日本国憲法における平和主義の意義と冷戦終結後の日本の安全政策のあり方を考えさせる。 ・国際平和や人類の福祉に寄与する日本の役割について考察させる。	○ ○ ○	○ ○ 	 ○	○ ○ ○	a:現実の平和主義にかかわる問題に対して関心を示し、日本が抱える課題に対して追究する態度を示している。 b: 平和主義の憲法の条規と、現実の社会における課題との関連を考察し、社会の望ましい在り方を判断している。 c: 平和主義に関する情報を、様々な手段を使い収集している。また、平和主義に関して収集した資料を、自ら設定した課題解決のために主体的に選択し、活用している。 d: 平和主義に関連する日本国憲法の基本的条規について、正しい理解を示している。	・発問評価 ・グループワーク ・ノート提出 ・小テスト ・授業態度 ・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。